

Tea Time

Your Healthy life by
advanced medical care

vol. **71** 2019 * AUTUMN



日本赤十字社医療センター情報誌
Japanese Red Cross Medical Center

日本赤十字社

日赤医療センターの
基本理念

赤十字精神『人道・博愛』の実践

「人道・博愛」の赤十字精神を
行動の原点として
治療のみならず健康づくりから
より健やかな生涯生活の維持まで
トータルでの支援サービスを
提供します

【特集】

いま求められる 医療の形、チーム医療



【Series】

専門看護師・認定看護師の
知恵袋

【患者さん、ご家族が心身ともに健康であるために】

ママと赤ちゃんの
HAPPY BIRTH ROOM

【乳児院での母乳育児とは】

ここからのおと

なんでも大辞典

【医師の初期臨床研修施設】

オープンホスピタル開催決定！

いつも貴重なご意見をありがとうございます

いま求められる 医療の形、 チーム医療

医療とは、数多くの職種の
共同作業によって成り立っています。
しかし、専門化、複雑化した
現代医療では、
一つの職種、診療科、病棟では
対応できない問題も出てきています。
そこで、患者さんの抱える問題に対して、
多職種のメンバーで共同し、横断的に
サポートしていくのがチーム医療です。



専門化複雑化した 現代医療への解決策として

日本赤十字社医療センター
チーム医療支援委員会委員長
橋田秀司 Hideo Hashida

多職種で構成される チーム医療

医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、事務職員など、多種多様な職種の共同作業によって、医療は行われていきます。これまで日本赤十字社医療センターでも、医師は診療科、看護師は病棟といった職種ごとの縦割組織でした。しかし、専門化、複雑化した現代医療では、一つの職種、診療科、病棟で対応できない問題が多くなっ



ています。そこで患者さんが抱える問題に対して、多職種が共同で横断的にサポートするシステムが「チーム医療」なのです。

私が参加する認知症ケアサポートチームの例を紹介しましょう。このチームは認知症認定看護師、神経内科医師、ソーシャルワーカーの3職種から構成されています。

よく言われることは、入院すると認知症が悪化するというもの。しかし、身体疾患で入院が必要となる認知症の方はどうしても存在します。このような方に対して適切なケアをアドバイスすることが求められるのです。そこで入院による認知症症状悪化を予防するのが認知症ケアサポートチームの役割です。

このための知識やスキルを持った認定看護師はまだ全国的にも数が少なく、各病棟に配置することは困難です。そのため病棟の垣根を超えた横断的なチーム医療が必要となつて

くるのです。

最善の医療を 提供するために

医療の専門化と複雑化、また認定看護師制度やチーム医療に則した保険診療制度の充実により、チーム数は年々増加し、分野も多岐にわたっています。現在、当センターでは19

のチームが存在しています。チーム医療は高度に複雑化した現代医療に対応するために導きだされた答えの一つなのです。

日本赤十字社医療センターではチーム医療を通じて、患者さんに最善の医療を提供したいと考えています。次に、いくつかのチームをご紹介します。

日本赤十字社医療センターの19のチーム医療

- 緩和ケアチーム/外来緩和ケアチーム
- 褥瘡対策チーム
- 栄養サポートチーム
- 糖尿病ケアチーム
- 糖尿病透析予防支援チーム
- 呼吸ケアチーム
- 在宅酸素療法サポートチーム
- 幹細胞移植サポートチーム
- 腎移植サポートチーム
- HIVケアチーム
- 創傷ケアチーム
- がんになった親をもつ
子どもへのサポート(こぐま)チーム
- 精神科リエゾンチーム
- 排尿ケアチーム
- 認知症サポートケアチーム
- 早期離床・リハビリチーム
- HBOCチーム
- サルコペニアチーム
- 乳児発達支援チーム

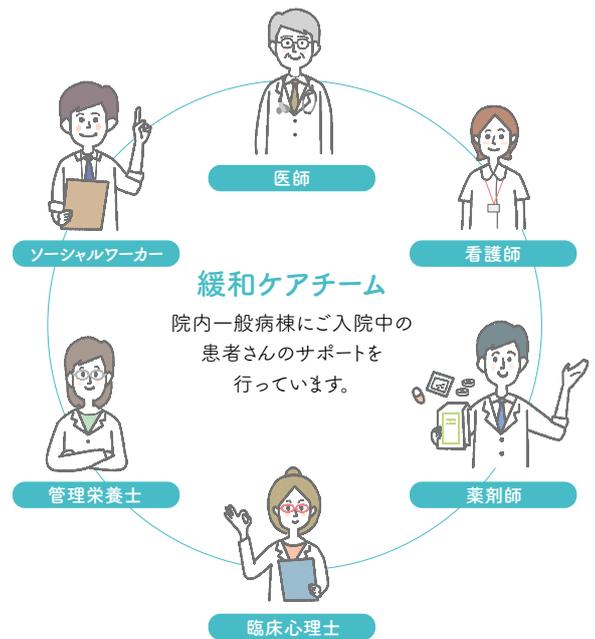
●は次ページ以降で紹介するチーム



緩和ケアチーム

入院中の心配事なら ご相談を!

緩和ケアチーム 医師
矢野有紀
Yuki Yano



よろず相談所

「緩和ケア」という言葉に抵抗感のある方も多いかと思えます。実は、私たち緩和ケアチームのメンバーが、患者さんのベッドサイドにお邪



魔して話していると、ほとんどの患者さんの表情は和らいでいきます。「なあんだ、こんな感じなのか」という、雰囲気が変わっていきます。

日本における緩和ケアがホスピスから始まったという歴史があり、一般的なイメージの「緩和ケアがくるるもうダメだ」という誤解が生まれやすく、実際の緩和ケアの守備範囲は非常に幅広く、いわゆる「よろず相談所」に近いものがあります。

痛み、息苦しき、吐き気、だるさなど、がんそのものに関連する症状のほか、化学療法や放射線治療などが治療による副作用を軽くするた

めのサポートなど。さらに、患者さんのさまざまな悩み、不安、焦りなどに対して、お部屋に伺ってご相談を受けることも多いのです。

そして、患者さんを支えるご家族の不安や、今後についてどうしたらよいのかというご相談を受けずる機会も多くあります。主治医の先生にはどうしても伝えることのできなかった悩みをお聞きし、主治医との橋渡しを行うこともあります。

緩和ケアチームの役割

現在では、「がんと診断されたときからの緩和ケア」が国によって推進されていますが、私たちはがんと診断する（告知する）ときの主治医の話し方、伝え方も緩和ケアの一つと考えています。

もちろん、がんの告知を受ける衝撃をまったくなくすのは不可能なのですが、話のなかでどう患者さんに伝えるか、受ける必要のない苦痛はできるだけ削ぎ落とすことに注力しています。私たちの姿勢は「あなたと一緒に頑張るからね」ということを、いかに伝えていくか、ということを大切にしています。

また、がん診療に携わる医師などへの緩和ケア研修会を定期的開催



しています。患者さんの思いや症状をどのように緩和していくかというこの研修は当センターの医師、他職種らが受講しています。

●患者さんへ

治療中のお困りごとを軽くし、順調に治療を進めるために、また、誰にも言えない思いがあれば、遠慮なく私たちにご相談ください。患者さんが私たちの顔を見てほっとした表情を見せてくれる瞬間が、緩和ケアチームにとって一番のご褒美なのです。

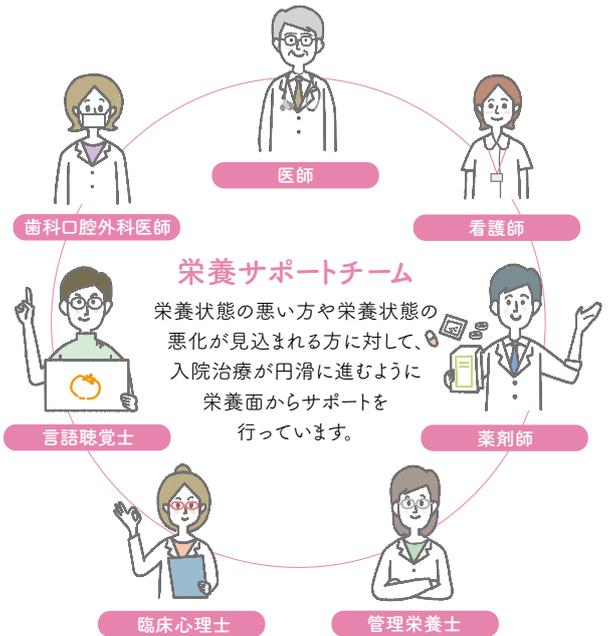
栄養サポートチーム (NST)

患者さんの 栄養状態を改善する

栄養サポートチーム 医師
風間義弘
Yoshihiro Kazama

注目を集めているNSTとは？

栄養状態が悪いと、どれだけ治療してもなかなか回復しませんし、また手術後に感染症や合併症が起こることがあります。このような問題を解決するための栄養サポートチームがNSTであり、院内でのチーム医療の活動が注目を集めています。活動として、最初に行うのがNST回診の対象となる患者さんの選出です。その患者さんに対して、週1回NSTのメンバーが集まって回診を行い、現在の状態を確認します。初回の患者さんにはNSTについて簡単に説明したリーフレットを渡してい



ます。回診日にNST回診リストと、それぞれの患者さんに対する身体計測、血液検査、必要エネルギー量、栄養方法などの様々なデータをまとめた個人ファイルを作成します。これに患者さんの回診時の計測値や栄



最良の栄養法を検討する

養摂取状況を書き加えて、これらの資料を参考に回診終了後チーム全体でそれぞれの患者さんに対する栄養評価と症例検討を行い、栄養療法を検討していきます。2018年度の回診延べ件数は639件でした。

栄養法としては、口から食べる「経口摂取」、鼻から挿入するチューブや胃瘻により胃に栄養剤を注入する「経腸栄養」法、静脈から栄養剤を投与する「静脈栄養」法があります。栄養法のなかでは経口摂取が第一に選択されます。嚙む・飲み込むという行為は運動機能の基本であり、全身の体力を反映しています。意識状態が悪い、嚙む・飲み込むという力が落ちていたりなど、さまざまな理由で必要栄養量が経口摂取のみでは足りない場合に経腸栄養・静脈栄養を併用します。それによって体力が

つければ再び経腸栄養・静脈栄養が必要になることがあります。

栄養法を併用する場合、経腸栄養が優先されます。なぜなら、静脈栄養のみしか行わない場合、腸を使わないため腸内細菌叢のバランスが崩れて免疫力が低下することがあるからです。また、腸内細菌によってピ

タミンが活性化されて吸収されませんが、静脈栄養だと腸内細菌がつくるそれらの栄養素を吸収できないという問題もあるのです。

●患者さんへ

NSTでは、どの栄養法をどのくらい投与するのが患者さんにとって最良であるか、検討して主治医に提案しています。入院中の患者さんの栄養状態が改善することを願って日々活動を続けています。



NSTのリーフレット



糖尿病ケアチーム

患者さんは、
もう1人のチームメンバー

糖尿病ケアチーム 医師
高屋和彦
Kazuhiko Takaya



糖尿病とチーム医療

わが国の糖尿病患者の数は年々増加しており、2017年の「国民健康・栄養調査」では男性の18.1%、女性の10.5%が糖尿病であると推計



されています。いまや「日本人の国民病」とまで言われるゆえんです。

その一方で、近年では糖尿病の治療はめざましい進歩を遂げています。以前よりも、そのコントロールは容易になってきているかのように見えます。しかし、糖尿病は「病気のデパート」と呼ばれるほど合併症の多い疾患であり、高齢化によって、ますます実際の糖尿病治療が複雑になっていきています。そのため、糖尿病はチームでの医療が最も必要とされる疾患の一つと考えています。

糖尿病ケアチームの役割

糖尿病ケアチームのメンバーは糖

尿病ケアに通曉したスペシャリストです。その多くは日本糖尿病学会専門医、糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士など糖尿病ケアの有資格者です。

本チームは、外来・入院患者さんの治療方針の決定、食事療法・運動療法・薬物療法の指導、インスリンの自己注射や自己血糖測定への指導、フットケア、臨床検査や診療報酬に関わる問題の解決など、直接的・間接的に当センターでの糖尿病ケアに関するあらゆる課題に能動的に携わっています。また、次のように多くの糖尿病患者さんや広く一般の方々に対する啓発にも取り組んでいます。

糖尿病教室の開催

1カ月に一度、センター内の講堂にて1時間半程度で糖尿病に関して、毎回さまざまなテーマからお話をしています。糖尿病患者さんに限らず、ご家族、または生活習慣病に関心がある方など、どなたでもお気軽に聴講していただけます。

「宮代会」活動

当センターおよび連携クリニックの糖尿病患者さんのための患者会です。患者さんが相互に情報交換をする場でもあります。

世界糖尿病デー活動

当センターの近隣の方々に対する啓発活動とし

て、世界糖尿病デー（毎年11月14日）には糖尿病に関する展示をセンター内で行っています。

●患者さんへ

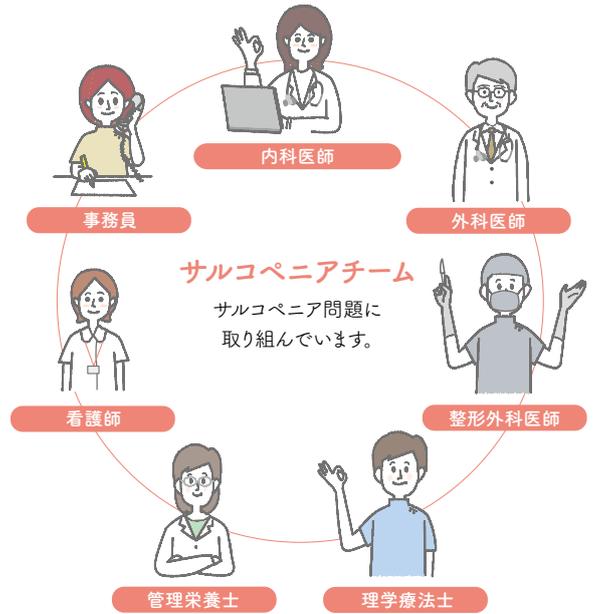
本チームでは患者さんをもう一人のチームメンバーとしてとらえ、患者さんの身体的・心理的負担を共有して理解し、その軽減に努め、安心して幸せな人生を送っていただけるようにと考えていきます。糖尿病は長く付き合わなければならぬ、時として煩わしい疾患ですが、上記の活動にご参加いただくことなどにより、少しでも患者さんの心の支えになればと願います。



サルコペニアチーム

健康寿命を
伸ばしていくために

サルコペニアチーム 医師
小松淳子
Junko Komatsu



「サルコペニア」とは？

サルコペニアは約30年前に提唱された疾患の概念です。筋量と筋力の減少に伴う身体活動性の低下、QOL（生活の質）低下と定義されています。サルコペニアには、加齢による一次性のもの、疾患や栄養不良などによる二次性のものがあります。それ自身が健康寿命を脅かすだけでなく、さまざまな疾患に関連して、その進行や治療の効果に影響を与えます。



現在のところは、がんや慢性疾患患者さんの治療前後のサルコペニア状態を把握して、治療効果をあげる

題ではありません。

サルコペニアチームの役割

ためにどのように改善していくか、目標や計画を立てる準備をしています。また、未病の方に対する予防策として、「ロコモドック」が開設されました。

「ロコモドック」はロコモティブシンドロームの早期発見・診断のためのドックです。ロコモティブシンドロームとは、サルコペニア（筋量の減少）だけでなく、骨や関節の疾患、老化により運動機能が低下した状態を含みます。

●健康診断を受ける皆さまへ

超高齢化社会においては、ロコモティブシンドロームは、認知症と並

んで健康寿命を左右するものです。皆さまのロコモドック受診をお待ちしております。



新コース

ロコモドックのご案内

要介護状態になりやすい
ロコモティブシンドロームをご存知ですか？

ロコモティブシンドローム(ロコモ)とは、運動器症候群の通称です。骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、「立つ」「歩く」と言った機能が低下している状態のことを言います。介護が必要になった理由の約半数はロコモが原因とも言われています。自分らしい生活を送るためにロコモドックを受けてみませんか？

日程	内容
1日目	全背骨のレントゲン・骨密度 血液検査・身長体重・体組成測定など 保健師による面談 活動量測定器装着
自宅で	活動量測定器を装着して1週間いつも通りの生活
2日目	整形外科医師による判定と説明 管理栄養士による栄養指導(必要時) 理学療法士による運動指導(必要時) 整形外科外来受診予約(必要時)

費用
ロコモドック:43,796円(税込)
*一日ドックのオプションとしてもご利用いただけます。

詳細・お申込みについて

病院HPもご参照ください。

☎ 03-3400-1311
日本赤十字社医療センター
健康管理センター 対応時間14時～18時30分
東京都渋谷区広尾4-1-22

ロコモドックのご案内ポスター

知恵袋

11

当センターには、日本看護協会が認定している専門看護師13人、認定看護師23人がおり(2019年9月現在)、それぞれの分野に特化した看護ケアを患者さんに提供しています。本連載は、私たち「専門看護師」「認定看護師」を皆さんによりいっそう知っていただくため、耳寄りな情報をリレー形式でお伝えします。

家族って どんな存在ですか？

「かけがえない大切な存在」と感じている方もあれば、「やかましい存在」と感じている方もあるでしょう。どちらか一方ではなく、その時々状況によって、家族に対する感じ方は変わってくることもあると思います。

私たちは普段、「家族」について考えることは、あまりないかもしれません。しかし、家族の誰かが病気になったり、介護が必要になったり、また赤ちゃんの誕生で家族メンバーが増えたりなど、これまでの生活スタイルを変えていかなければならないようなことがあると、改めて「家族」としてどうしたらよいかを考えさせられることが多くなるのではないのでしょうか。

家族だからこそ 難しいこと

家族は、飾りのモビールのように、普段はバランスよく安定した状態を保っています。しかし、家族のなかに起きた出来事によっては、気持ちや不安定になったり、家族の間で意見が分

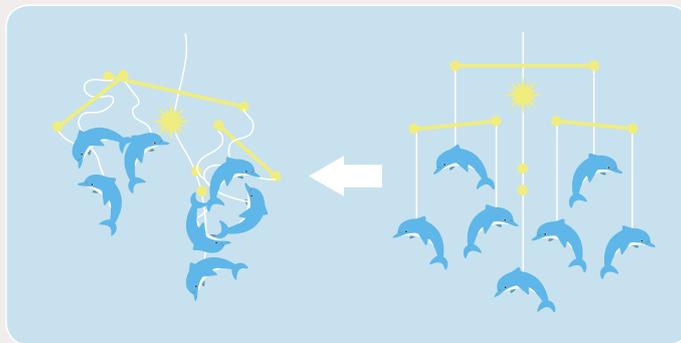


患者さん、ご家族が 心身ともに健康であるために



家族支援専門看護師
関根光枝
Mitsue Sekine

かれたりして話し合うことが難しくなったり、また仕事や生活に支障をきたしてしまったりなど、さまざまな問題が生じてくる場合があります。そして、モビールが大きく揺れ動き、



時には飾り同士がぶつかったり、紐が絡み合ったりして、元の形に戻すことに四苦八苦するように、ご自分たちだけでは何をどのようにしていったら良いかわからなくなってしまうこともあります。

家族だけで 抱え込みすぎないように

そんなとき第三者の支援を得ることによって、複雑に絡み合った状況を一緒に整理しながら、ほぐしていくことが出来るようになります。また、家族だからこそ面と向かって話せないことが、誰かが間に入ることによって、互いの本当の思いを伝え合うことが出来る場合もあります。

「家族でなければできないこと」や「家族にしか話せないこと」はたくさんあります。しかし、そこには「家族だからこそ難しいこと」や「家族だからこそ話せないこと」もあるのです。そういう時こそ、自分たちだけで抱え込まずに、周囲の支援を得るのも解決に向かう一つの方法です。

病棟や外来のスタッフはもちろんのこと、日本赤十字社医療センターにはさまざまな分野の専門看護師や認定看護師がいます。患者さんご家族が心身ともにより健康的に過ごされることを願い、支援させていただきます。

「専門看護師」は看護ケアのスペシャリストであり、「認定看護師」は臨床現場におけるエキスパートです。両者ともに高い専門性が求められているものの、能力・知識・技術・ポジション・業務内容には大きく違いがあります。【専門看護師/CNS: Certified Nursing Specialist】専門看護分野の13分野で、患者だけではなくその周囲の人たちを含めてケアを行い、人間関係までもサポートする【認定看護師/CN: Certified Nurse】専門看護分野は21分野で細かく分かれており、特定の分野において高い水準の看護技術によって看護にあたる



乳児院での母乳育児とは



附属乳児院
家庭支援専門相談員
満洲まさみ
Masami Mizobuchi

愛着形成を重視した養育

日本赤十字社医療センターの敷地内にある日本赤十字看護大学のわきに、附属乳児院があります。乳児院はご家族の病気やその他さまざまな理由から家庭で養育することが困難な状況の赤ちゃんを、児童相談所を通じて24時間365日体制でお預かりしています。入所対象者は、生後すぐの新生児から、0～2歳を中心に、就学前までのお子さんです。

「生涯」にわたる人格形成・人間形成の基礎となる大切な一時期を、ご家族と離れて過ごすことになるので、専門的な知識とスキルを持った看護師、保育士、栄養士、心理士といった職員が、赤ちゃんの個性や育ちを尊重し、愛着関係の形成を重視した養育を行っています。

また、ご家族に対しては、それぞれの家庭にとってよりよい家族再統合の形に向けて、担当養育者や家庭支援専門相談員が中心となり、相談に乗ったり悩みを聞いたり、育児スキルの練習をしたりとさまざまな支援を行っています。さらに、家庭で養育することが難しい場合には養育里親や特別養子縁組への委託に向けて、子どもと里親への支援を行っています。

授乳による好循環の連鎖

乳児院に入所するお子さんの4分の1が生後0カ月、約半数が生後2カ月以内に入所しています（2018年度当院新規入所児実績）。母乳を与えることで、母子関係の良好な形成を促すと言われていますが、入所により母乳育児が困難となります。

当院の母乳育児継続の取組みとして、母親の意向や状況を十分に確認しながら、無理のない方法を提案しています。医療を受けている場合には、主治医の意見も確認します。直母（乳房から直接母乳を与えること）での授乳は乳児院に勤務する助産師がサポートします。直母以外では冷凍母乳を持参していただき対応しています。



病気やその他さまざまな理由により、母乳育児ができない場合には、栄養士と看護師、保育士が連携しながら、一人ひとりの赤ちゃんに合わせた量と回数を提供しています。母乳育児のメリットを十分に理解しつつも、母子の状況に合わせて、より良い状態や関係性が築けるようにサポートを行います。

例え、どのような理由であっても、大切な赤ちゃんと離れて過ごすことは、ご家族にとって辛い経験であり、不安や心配を抱えています。そのなかでもご家族が主体的に選択ができ、またその選択を肯定的に受け止められるように、乳児院全体でサポートしていきたいと考えています。

ショートステイ事業

当院では本体事業の他に、4区（渋谷区・世田谷区・台東区・荒川区）のショートステイ事業の委託を受けています。就労や冠婚葬祭、育児疲れなどで一時的に養育することが困難な場合に、宿泊を伴うお預かりをするサービスです。ショートステイ事業においても、母乳育児の継続については入所同様の方針のもと受け入れを行っています。

* 乳児院に入所を希望される方は、お近くの児童相談所へご相談ください。ショートステイ事業については、地域によりサービスが異なりますので、直接、お住まいの地域の子ども家庭支援センターへお問い合わせください。

身体

布団の中でストレッチ

心地よい朝の目覚めのために、楽に呼吸をしながら、全身を気持ちよく伸ばしましょう。

①全身で伸び (写真)



*突然動かすと足がつることがあるのでゆっくりと!

②身体の横を伸ばす

背中が布団から浮かないように、身体を横に傾ける (左右行)



*片足をのせると体が安定!



健康管理センター
健康運動指導士
渡辺久美
Kumi Watanabe

脳

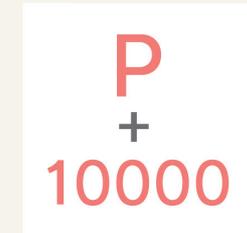
とんち文字

数字を使ったとんち文字! さて、何て読む?

例



①



②



③



答え ①ピーマン、②七転び八起き、③四捨五入



初期研修医は、このような実際の診療に携わるほか、院内勉強会、院内研修医発表会、医学会での報告も経験します。院内勉強会では各科専門医から救急外来で診療する頻度の高い症例を中心に学びます。また、研修医発表会では発表内容や発表方法について、専門医だけでなく先輩研修医から直接指導を受けるなど、文字通り「屋根瓦方式」の研修が行われています。

2年間の臨床研修を終えると、初期研修医はそれぞれが志す専門分野に分かれ、さらに研鑽に励みます。このように医師として一

* 5年以上の経験を積み

初期研修医は、このような実際の診療に携わるほか、院内勉強会、院内研修医発表会、医学会での報告も経験します。院内勉強会では各科専門医から救急外来で診療する頻度の高い症例を中心に学びます。また、研修医発表会では発表内容や発表方法について、専門医だけでなく先輩研修医から直接指導を受けるなど、文字通り「屋根瓦方式」の研修が行われています。

* 診療能力の基本を修得する

医師が診療に従事するためには医師免許取得後、2年以上の臨床研修を大学病院または厚生労働大臣の指定する臨床研修病院において受けなければなりません。日本赤十字社医療センターでは臨床研修病院としての指定を受け、毎年18人の「初期研修医」を採用し、2年間の臨床研修教育を担っています。



日本赤十字社医療センター

医師の

初期臨床研修病院



昨年度の様子：救護用テント



ホスピタルツアー

オープンホスピタル開催決定！

11月23日

病院開放イベント

4回目を迎える病院開放イベント「オープンホスピタル」を11月23日(土)に開催します。

日本赤十字社医療センターでは、普段見ることのできない手術室や内視鏡室をめぐる「ホスピタルツアー」、妊婦体験・感染予防の防護服体験・白衣を着て記念撮影、災害時などに使用する救護用テントや持ち出し物品の展示・AED使用体験、各種身体計測結果をもとにした健康相談、お子さんと一緒におもちゃづくり、がんサバイバーによる小学生対象の講演「命の授業」など、職員が一丸となって、ただいま準備中です。

詳しくは、10月中旬に当センターのホームページにてお知らせいたします。多くの方のご来場をお待ちしております。

* 秋編 vol.13 *

ここからのおと 「心」と「身体」と「脳」の 健康のために

脳の活性化は、

心や身体の健康のためにもよいのです。

健康な毎日を送るためのヒントをご紹介します。

心

朝のお目覚め法

朝起きる時は、自然と目が覚めますか？ それとも、目覚まし時計で起きますか？

自律神経からすると、目覚ましの音は、睡眠という副交感神経優位の状態から、急に交感神経優位の状態となり、少しストレスがかかります(つまり、大きな音で危険を察知するような状態)。

そこで、寝室のカーテンを少し開けておき、自然な光で目を覚ますという方法もよいでしょう。私たちは、光を浴びると身体が起きるリズムを持っているのです。

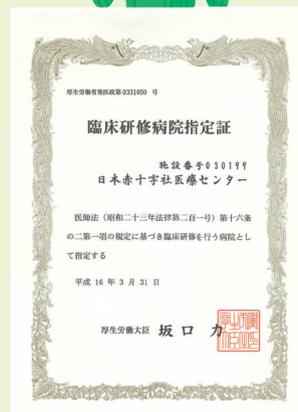


ご寄付

日本赤十字社医療センターの病院事業資金としてご寄付いただき、誠にありがとうございました。皆さまからの貴重な寄付金は、病院運営や救護資材の備蓄などのために大切に使用させていただきます。芳心賜りました皆さまへの感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、掲載の許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

森 玲子 さま(神奈川県横浜市)
林 紀久子 さま(東京都国分寺市)
坂梨澄枝 さま(東京都墨田区)

*順不同



人前になるためには5年以上の年月を要します。当センターでは今後とも将来の医療を支える若い医師の育成に取り組んでまいります。お気づきの点がございましたら、「患者サード・ビス推進課」(平日9時~16時30分)にお寄せください。臨床研修へのご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

いつも貴重なご意見をありがとうございます

日本赤十字社キャラクター
「ハートラちゃん」

皆さまのご意見を
病院内の環境改善に
役立てています！

ご意見箱は
院内に15カ所
(外来6カ所、入院病棟各フロア1カ所)
にあります。

こんにちは。

1階工事期間中はご不便をお掛けいたしました。改めてお詫び申し上げます。

期間中は普段よりも、たくさんのご意見をいただきました。病院には、受診だけでなく、買い物や食事など、さまざまな理由があつてお越しいただいていることも改めて知ることができました。

やはり、病院とは心も身体もつらい状況を抱えている方々が多いのも事実です。走っている方と車椅子が接触しそうになるような危険な状況も見受けられます。キックスクーターも健常な方には通常なのかもしれませんが、病院においてになるときはご遠慮いた

だきたいと思いません。携帯電話はもう身体の一部のようなものではありませんが、基本的にマナーモードで周囲にご配慮のうえご利用ください。お願いばかりで申し訳ございません。

完成した新しいレストランや設備をご利用いただけ

ましたか。皆さまからいただいたご意見・ご要望にお応えてまいりました。まだまだ至らない点もあるでしょうが、今後ともよろしく願いいたします。



3階外来エレベーター横

診察のご案内

日本赤十字社医療センター 代表 TEL 03-3400-1311

●受付時間 初診の方：8:30～15:00 再診の方：7:50～15:00

*受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。また、「かかりつけ医からの紹介状」をご持参いただくと、初診時に係わる保険外併用療養費 5,500 円が免除されます。

●急病の場合：曜日、時間に関係なく、救急外来で診察します。ご来院の前にお問い合わせください。

●診察カード：全科共通で永久にご使用できます。ご来院のときは必ずご持参ください。

●健康保険証：ご来院のときに確認していますのでご持参ください。また、保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出ください。

●院外処方せん：全国の保険調剤薬局でお薬をお受け取りください。

●外来休診日：土曜日/日曜日/祝祭日/年末年始：12月29日～1月3日/
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

次号のお知らせ

2019年8月から1階のコーヒーショップ付近において、改修工事を実施しており、ご来院の皆さまには騒音や工事関係者の出入りなどご迷惑をおかけいたしました。

10月15日からこの場所は、現在、会計窓口の横に開設している「患者支援センター」が移転して、機能を開始いたします。新しくなった「患者支援センター」については、次号のTea Timeで詳しくお伝えいたします。



赤十字全般に関すること<http://www.jrc.or.jp/> 日赤医療センターに関すること<http://www.med.jrc.or.jp/>
*外来診療の最新スケジュールは、ホームページでご確認ください。*本誌のバックナンバーはPDF版でご覧いただけます。

モバイル
サイトは
こちら▶

